



# OECD 学びの羅針盤 (Learning Compass) 2030と Education2030 Phase2に向けて

令和2年 3月

OECD 教育・スキル局

鈴木 文孝



# OECD Education 2030 プロジェクト

## 【概要】

2030年に子供たちに求められるコンピテンシー(資質・能力)を  
検討するとともに、そのようなコンピテンシーの育成につながるカ  
リキュラムや指導方法、学習評価などについて検討

- 児童生徒が成長して、より良い未来を創造するためには、  
どのような知識、スキル、態度及び価値が必要なのか。
- これらの知識、スキル、態度及び価値を効果的に育成し  
ていくためには、どのような教育制度、学校や授業の仕  
組みが必要なのか。



# OECD Education 2030 プロジェクト

OECD東北スクール  
(2012～2014年)

2011年3月11日  
東日本大震災



2014年8月30・31日

- 被災地の中高生が東北の魅力をパリから世界にアピール



©OECD/Marco Illuminati

E2030フェーズ1  
(2015～2018年)

- 2030年に向けた、生徒に求められるコンピテンシー等を関係者と協働して導出（「学びの羅針盤」ラーニング・コンパス）
- 国際的なカリキュラムデザインに関する共通原理の分析

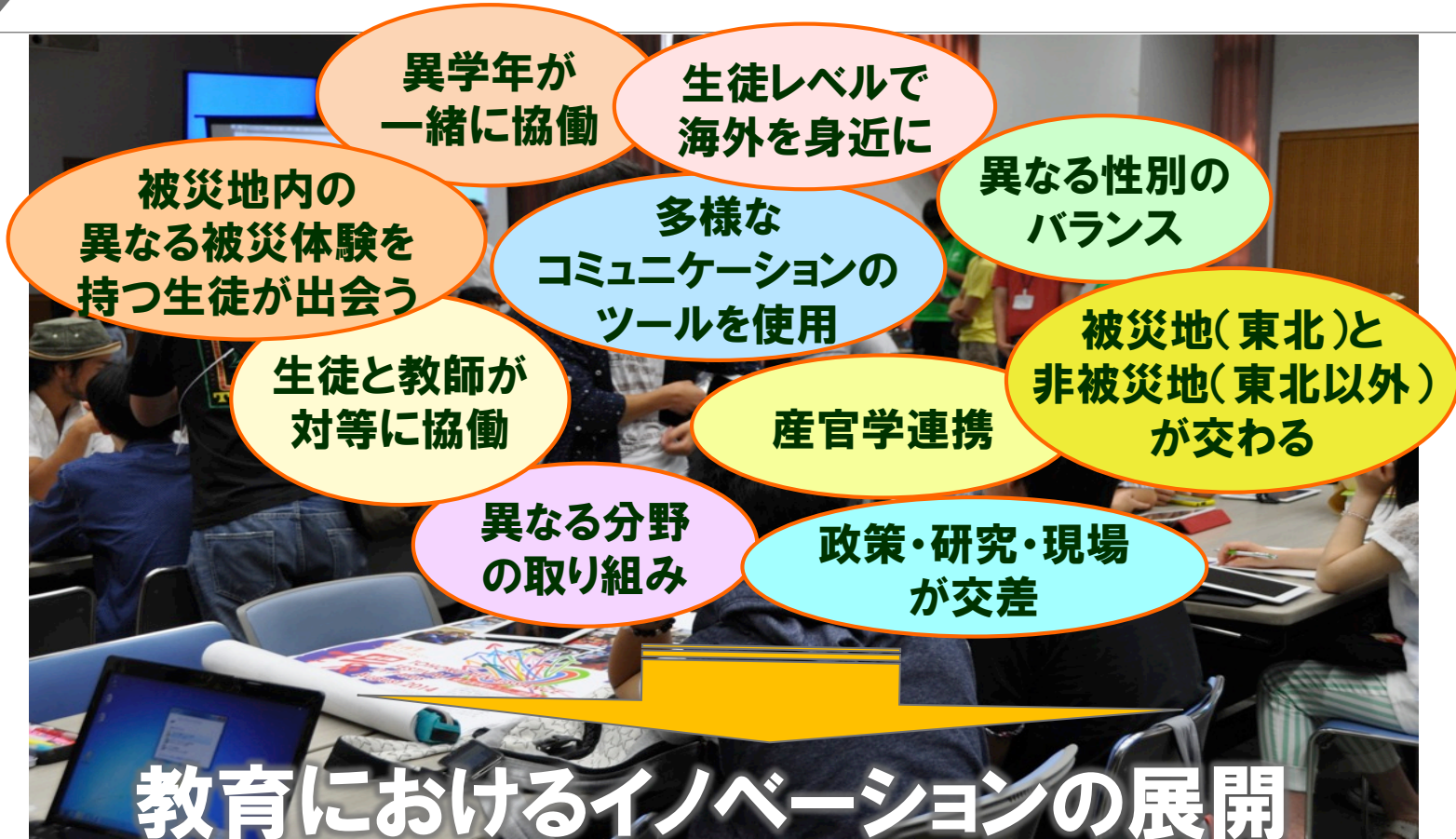


E2030フェーズ2  
(2019年～)

- 2030年に向けた、教師に求められるコンピテンシー等を関係者と協働して導出
- カリキュラムの効果的な実施を可能とする共通原理の分析



# 教育的実験としてのOECD東北スクール





# OECDの新しいアプローチ

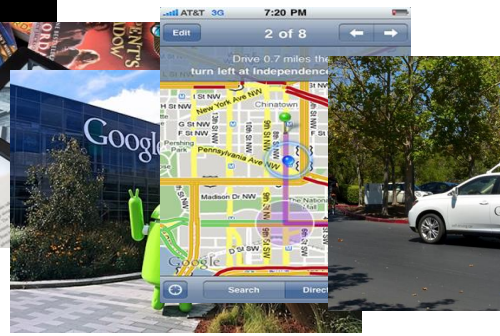
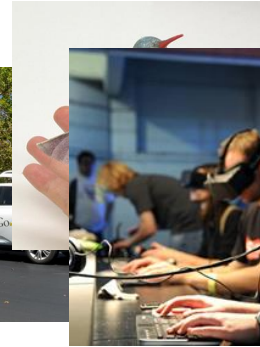
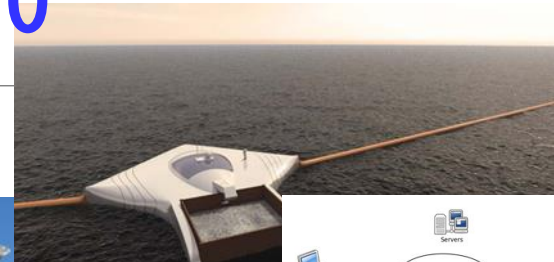
- 国際マルチステークホルダーによる共創

政府代表者      研究者      教師      NGO、財団、  
企業関係者等      大学生・高校生





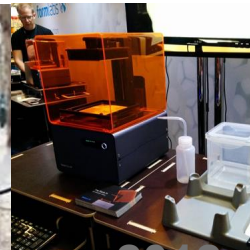
# 社会の変化とSociety5.0



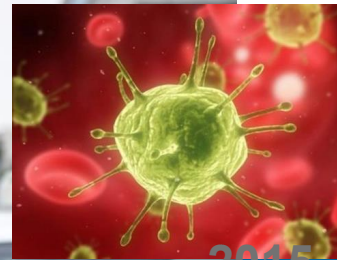
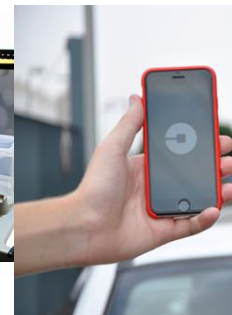
2006



2009



2012



2015



# VUCAな時代

世界は、ますます . . .



VOLATILE



不安定

UNCERTAIN



不確実

COMPLEX



複雑

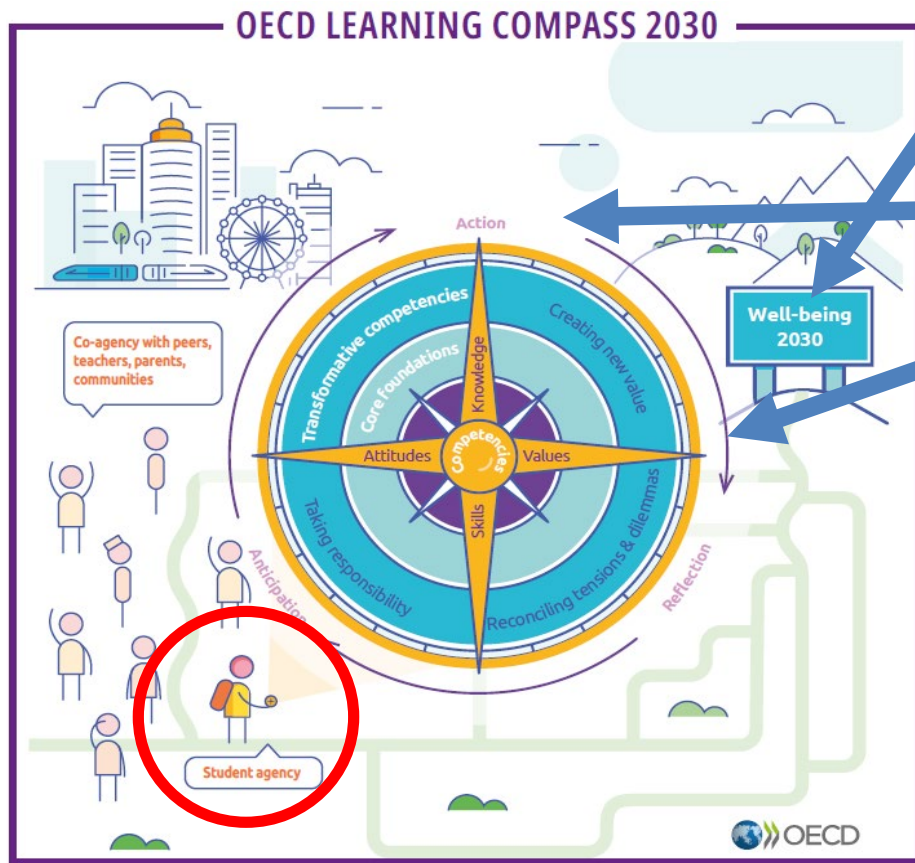
AMBIGUOUS



曖昧



# OECD 学びの羅針盤 2030



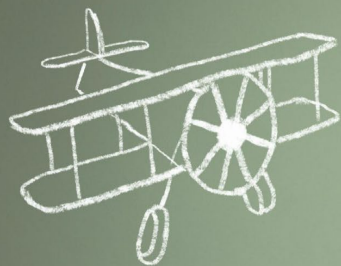
- 何のために学ぶのか？
- どのようにして学ぶのか？
- どんな力が必要なのか？

ラーニング・コンパスという比喻は、生徒が、未知なる環境の中を自力で歩みを進め、意味のある、また責任意識を伴う方法で、進むべき方向を見出す必要性を強調する目的で採用されました。





# 生徒エージェンシー



働きかけられるというよりも**自らが働きかける**ことであり、型にはめ込まれるというよりも**自ら型を作る**ことであり、また他人の判断や選択に左右されるというよりも**責任を持った判断や選択を行う**こと

## 生徒エージェンシー:

- 生徒が自分の人生や周りの世界に対してポジティブな影響を与えうる意思と能力を持っている
- 変革を起こすために目標を設定し、振り返りながら責任ある行動をとる能力

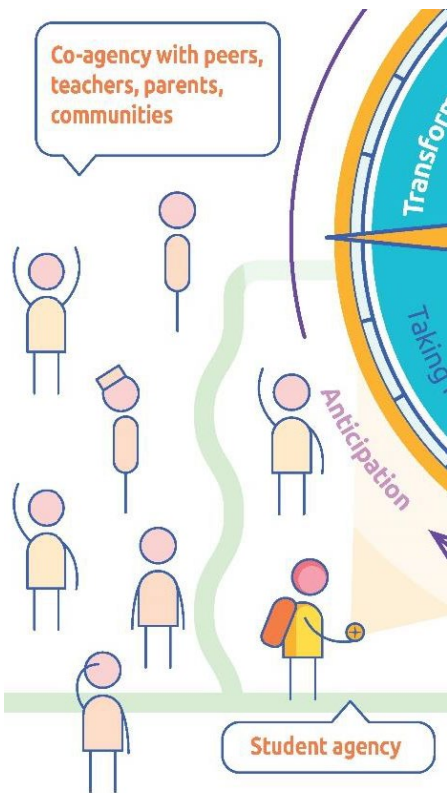
## より良い未来を創る主体としての生徒

- 社会の課題や新たな可能性を当事者意識をもって発見する主体
- 自らの行動で自分や自分の周りをより良い方向へ変えられるという自己効力感をもつ主体
- 変化の目的の意味や意義を見出し、価値づけできる主体
- その目標を達成するために責任を持って行動する主体



# 共同エージェンシー

生徒エージェンシーは、生徒の自治や声、選択とは異なる。



「共同エージェンシー」の重要性  
=Agencyは他者との関係性の中で存在

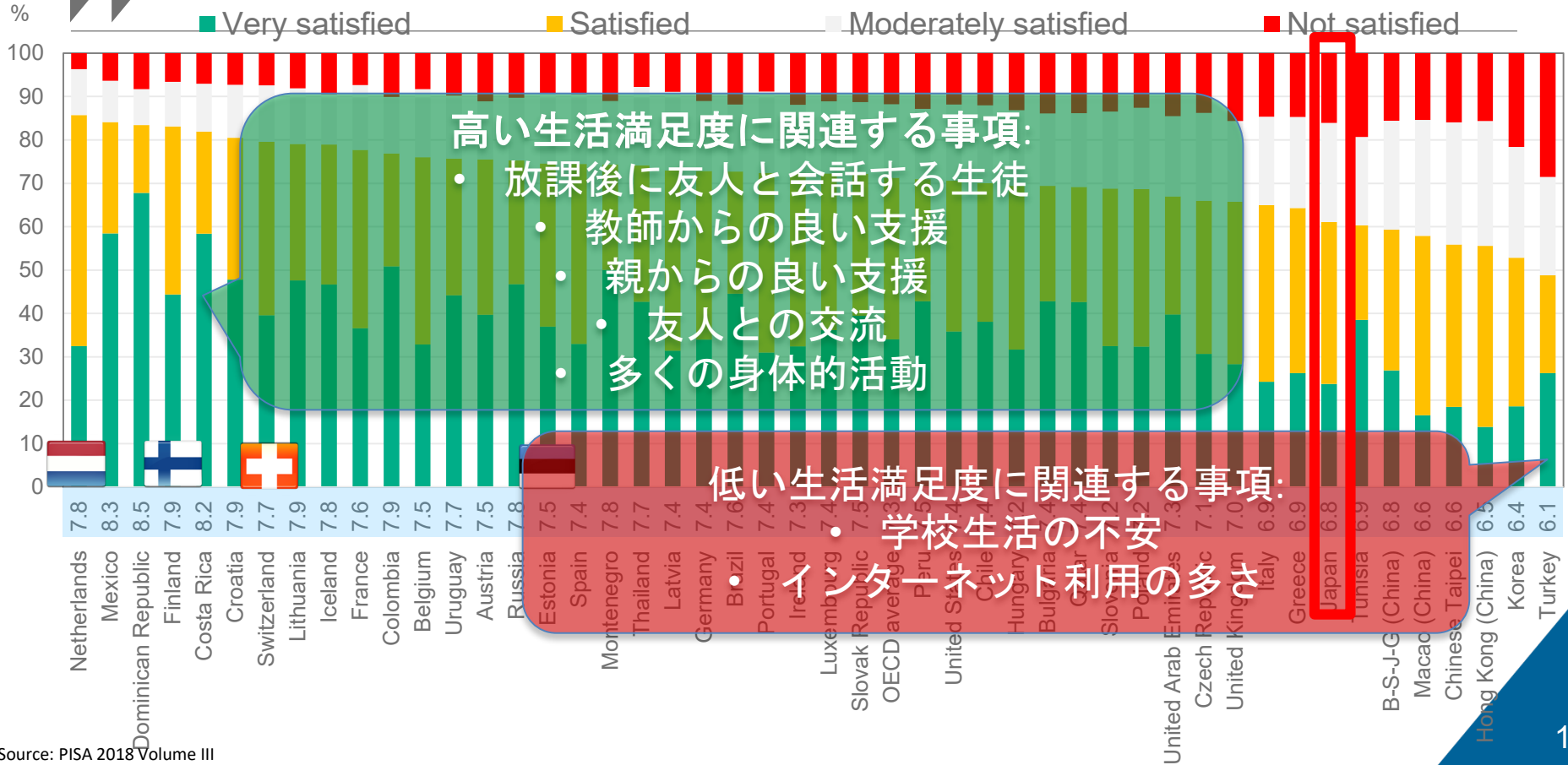
共同エージェンシー：

- 生徒が、共有された目標に向かって邁進できるように支援する、保護者との、教師との、コミュニティとの、そして生徒同士との、双方向的な互いに支え合う関係

保護者や仲間、教師、コミュニティは生徒が持つエージェンシーの感覚に影響を与え、また生徒もそれらのエージェンシーの感覚に影響を与え、成長やウェルビーイングによい影響を与える好循環をつくる

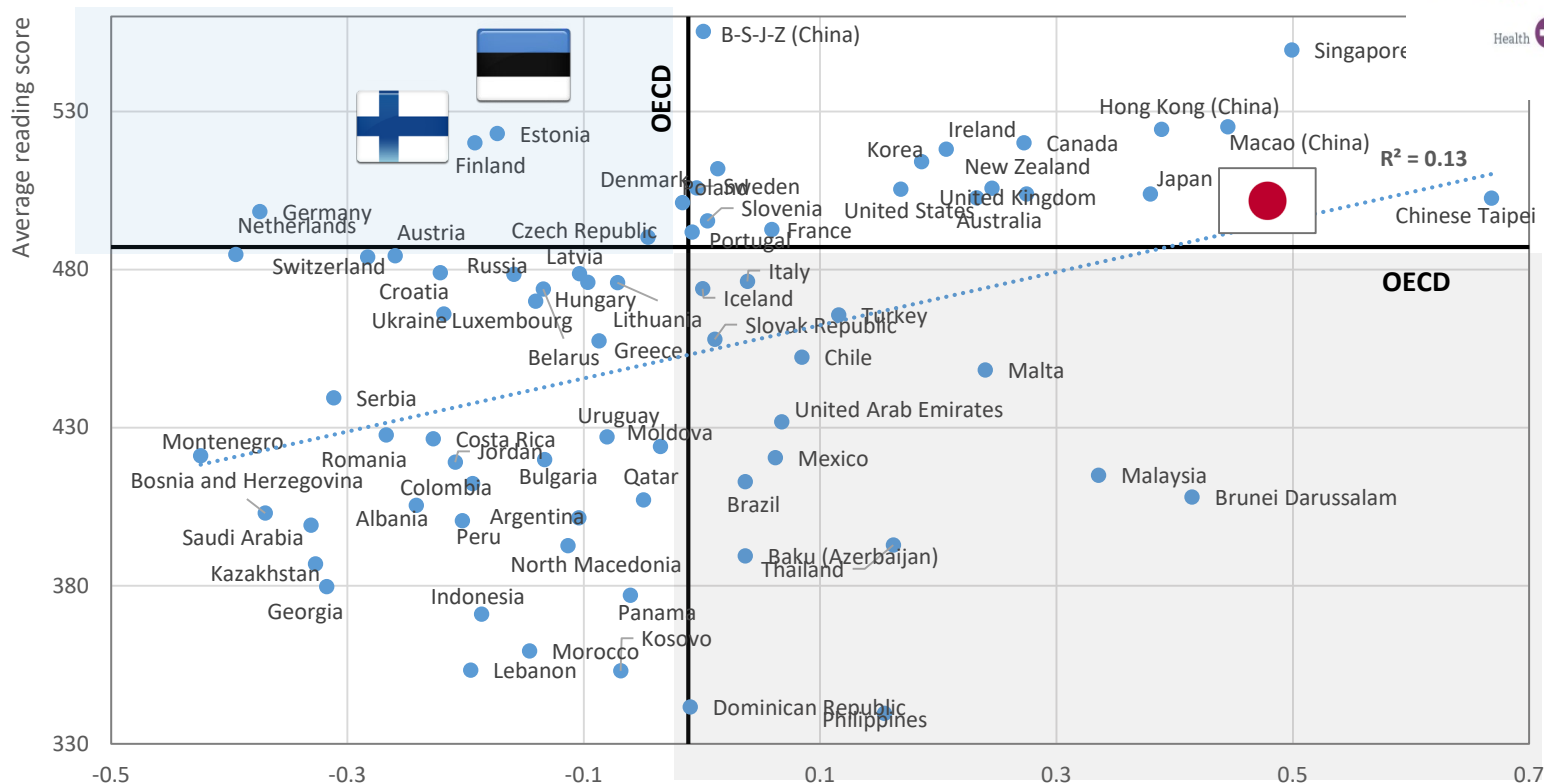
=エージェンシーが、有機的にそれぞれ他のエージェンシーと関係し合い、成長と学びが可能になる

# PISA2018における生活満足度





# PISA2018における失敗に対する恐れと読解力





# OECD 学びの羅針盤 2030



## コンピテンシー

- 知識
- スキル
- 態度と価値

エージェンシーを発揮し、自らが持つ可能性を発揮できる方向へ進むために、生徒は「学びの中核的な基盤」を持っていなければならない。



# OECD 学びの羅針盤 2030



## より良い未来の創造に向けた 変革を起こすコンピテンシー

- 新たな価値を創造する力
- 対立やジレンマに対処する力
- 責任ある行動をとる力

複雑性や不確実性に適応し、より良い未来を創造できるようにするため、変容する世界をどのように創造し、そこでどのような貢献ができるかを学ぶ上で必要なもの



# 日本の学習指導要領改訂

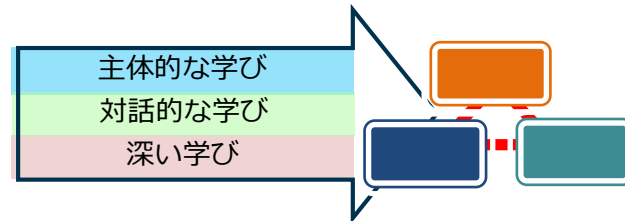
## 何ができるようになるか



## どのように学ぶか

### 主体的・対話的で深い学び

(「アクティブ・ラーニング」) の視点からの学習過程の改善





# フェーズ2におけるOECDの取組

## 5つのテーマ別ワーキンググループ

1. カリキュラムの実施のための、教師エージェンシーや教師に求められるコンピテンシー等
2. カリキュラム改革と指導法や学習評価の改革との連携
3. カリキュラム改革と教員養成課程や教員研修の改革との連携
4. 実験的取組を進める学校
5. ラーニング・コンパスの理解促進





# 国際カリキュラム分析報告書

各国がカリキュラム改革をより体系的に行うことを支援するために、カリキュラム改革に伴う各国に共通する6つの課題ごとに、各国の取組事例のほか、課題や戦略等を分析

カリキュラム  
の負担過剰

カリキュラム  
の柔軟性と自  
律性

カリキュラム  
における諸価  
値の位置づけ  
方

カリキュラム  
と将来のニー  
ズとのタイム  
ラグ

カリキュラム  
革新による公  
平性の確保

カリキュラム  
の改訂におけ  
る効果的な実  
施のための事  
前設計

今後、  
公表予定



# 特定の教科・領域等に関する報告書

『2030年に向けた動的かつ包括的な体育への転換』

2019年10月に公表

18か国・地域における体育・健康教育のカリキュラムや実践の状況、体育の生徒への影響等について比較し、分析

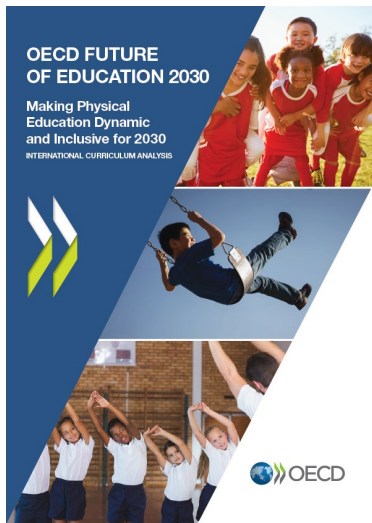
OECDが政策分析の一環として、体育・健康教育に焦点を当てるのは初

算数・数学のカリキュラム分析

各国の数学教育において、創造性、デジタルリテラシー、批判的思考力などの21世紀型のスキルがどの程度までカリキュラム及び教科書に組み入れられているかについて分析



今後、公表予定





# 山中伸弥先生からのメッセージ

(抜粋・仮訳)

「新しい価値を創造する力」は、OECDのラーニング・コンパスにも示されているように、未来を生きるすべての子供たちにとって必要なコンピテンシーです。

子供たちには、学習、スポーツ、芸術など、いろいろなことを経験し、多くの失敗を重ねることが大切だと思っています。失敗から新しく気づくこともありますし、失敗を乗り越える力もつくでしょう。若い頃の失敗は必ず成長につながり、将来の財産になります。子供たちには、ぜひ失敗を恐れずに挑戦をしてほしいと思います。

学校や先生たちには、子供たちがいろいろなことを経験できる機会をつかってほしいと思います。そして、子供たちが挑戦する姿を温かく見守り、必要な時に手を差し伸べてあげるという姿勢が大切だと考えます。失敗や挫折を恐れずに、たくさんの経験をすることが、科学技術の分野はもちろん、様々なフィールドで活躍する人材には必要不可欠だと考えています。

